

1941

JICPOA

部  
多  
人  
白  
己



驅逐艦時雨戰鬥詳報

DD SHIGURE

5/12

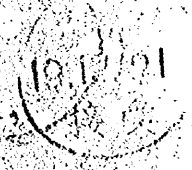
時雨機密第一〇七號  
昭和十九年十一月二十日

十二月十五日提出

自昭和十九年十月二十三日  
至同日二十七日

以ノシ海戰

驅逐艦時雨



一 形勢  
 二 計畫  
 三 經過  
 四 令達報告及通報  
 五 戰果及被害消耗兵器等  
 六 戰訓所見

目次

時雨亭

(目次終)

一形勢

十月二十日以來有カナル敵機動部隊、沖繩、台湾、菲島方面ニ來龍襲  
 戦烈ニシテ敵上陸隊戰、近道北候顯著ナルモ、アリ十月十六日中島親牙  
 準備ヲ完成シ捷ニ作戦ニ備フ<sup>十月十九日捷ヲ作戦敵機動部隊ハ</sup>カニニル島方面ニ  
 出現シ南面作戰牽制作戰ヲ企圖シアルモ、如シ

十月十八日ヨリヨリ<sup>ヨリヨリ</sup>技師<sup>ヨリヨリ</sup>ブルネ<sup>ヨリヨリ</sup>ニ進出ス十八日六敵巡基<sup>ヨリヨリ</sup>トラス<sup>ヨリヨリ</sup>地  
 區砲撃開始十九日ヨリヨリ<sup>ヨリヨリ</sup>度<sup>ヨリヨリ</sup>八<sup>ヨリヨリ</sup>理<sup>ヨリヨリ</sup>敵大輸送船團發見

台湾沖艦空襲ニ依リ沖繩台湾方面ニ敵機動部隊  
 大部ヲ潰滅シシルモ尚菲島東方海面ニ敵群<sup>ヲ</sup>有カナル敵機動部隊

隊残存シテリ<sup>シ</sup>ガ支援<sup>シ</sup>下ニ<sup>ニ</sup>ヨリ<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>敵ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>カ</sup>ク<sup>ク</sup>ロ<sup>ロ</sup>バ<sup>バ</sup>ン<sup>ン</sup>ニ<sup>ニ</sup>上陸ヲ開始  
 シク<sup>ク</sup>ロ<sup>ロ</sup>バ<sup>バ</sup>ン<sup>ン</sup>海軍飛行場ニ上陸セリ敵之陸兵力約三師團<sup>ニ</sup>推定<sup>ス</sup>レ<sup>ル</sup>ヨ<sup>リ</sup>

湾内戦艦巡洋艦十数隻輸送船八十隻其他小型舟艇多数存存在ス  
 2月20日ニヨリヨリ<sup>ヨリヨリ</sup>着<sup>ク</sup>燃<sup>ス</sup>料<sup>ヲ</sup>補<sup>ス</sup>給<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ニ</sup>備<sup>ス</sup>ル<sup>ル</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>完<sup>ス</sup>成<sup>ス</sup>

キヨ

二十日三島ノ敵機動部隊依然公海機動ヲ續ク非島方面各基地ヲ襲  
 又二十日又ロソノ基地ヨリスル敵大型機群ダバオノ空襲敵陸隊戦  
 支援機動ヲ見セ輸送船團三隻ロイツ南東方ヨリ増援シツアリ  
 六月二十五日期シテ我水上部隊北方ヨリスル我機動部隊及基地航空  
 部隊ト策應シテ我機動部隊ヲ襲撃シテ我機動部隊及基地航空  
 隊ヲ三分シ第一第二部隊ハ八ノ機動部隊ハ五ノ機動部隊ハ三ノ機動部隊  
 部ニ一ヨリ馬公出撃手マニヲ徑テスリガオヨリロイツ南東方ヨリ増援シツアリ  
 戦ニ加入セントスル形勢カニアリ  
 二十日。九。ロソノ機動部隊依然公海機動ヲ續ク非島方面各基地ヲ襲  
 菲島東方海面ニ六隻艦ニ及至五隻ヲ基幹トスル三群以上ノ敵機動部  
 隊存在ス

計畫

如工形勢ニ基キIIBハ基地航空部隊機動部隊本隊ト協同シテ  
黎明時、ソクハシ方面ニ突入先ヅ所駐海上兵力ヲ擊滅シテ敵攻隊部隊  
ヲ殲滅セントスIIB兵力ヲ三分シIIBノ主力(第一隊)部隊ヲ以テ二十三日ハ、ソクハシ  
ノ以撃テ二十四日、日没時、サトルル子ノ海峡ヲ突破シテ島嶼突撃隊面ニ於テ  
夜戦ニ依リ所在敵水上部隊ヲ捕捉撃滅シテ後二十三日朝、ソクハシノ泊地ニ突  
入シ敵船団及上陸軍ヲ殲滅ス第三部隊ハIIB本隊ト分離別動シ二十一日  
一五〇〇ブルホト出撃先頭隊ニ依テ、夜戦ニシテ、海ヲ経テソクハシノ海峡ヲ突破シテ翌黎明時  
(日出ニ時間前)、ソクハシノ泊地ニ突入殺到シ敵船団及上陸軍ヲ殲滅シテ

天象	一〇〇〇	一〇〇〇	〇九〇〇	〇八〇〇	〇七〇〇	〇六〇〇	〇五〇〇	〇四〇〇	〇三〇〇	〇二〇〇	〇一〇〇	〇〇〇〇	十月二十四日	九度三十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月二十五日	九度四十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月二十六日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月二十七日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月二十八日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月二十九日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩	
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十月三十日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十一月一日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十一月二日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩
	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	十一月三日	九度五十分	北	晴	三	CU	北東	六	三五五五	八	新	平穩

小氣象観測

時刻

方位

候

風向

風速

湿度

備考

別紙  
行動圖  
記載通

十月二十六日

〇六四

〇〇〇月齡六八

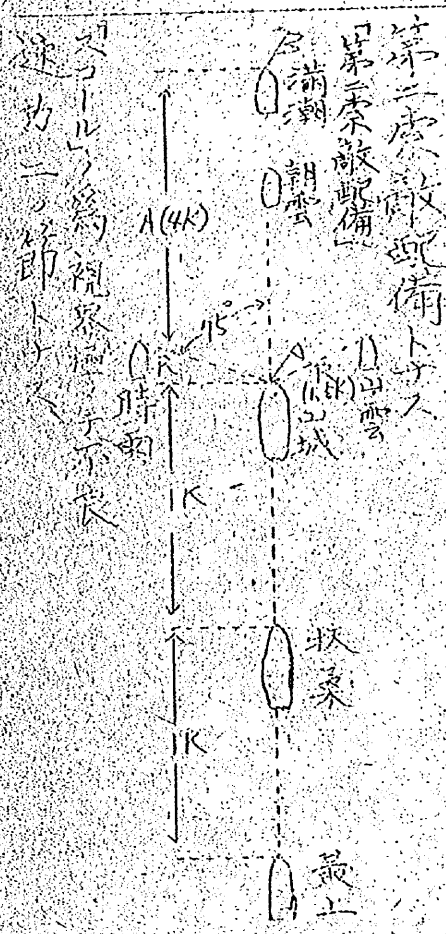
〇八四

1757

1757

月	日	時刻	記事
一	五	〇	出
BN			記
			事
			手

十月二十五日 〇三〇  
 〇三三  
 〇三九  
 〇四九



バズンクイッチヤン不通過  
 〇三〇  
 〇三三  
 〇三九  
 〇四九

第一度敵砲術トナス  
 第二度敵砲術トナス  
 扶桑  
 最上

視界  
 距離



十月二十日

二〇九

敵魚雷艇數隻下之

二五六

予が島側へ敵艦遂艦着以上發見

三〇九

照射砲擊開始敵艦張反轉同航上煙幕利シ

三一

口可島側へ敵艦洋艦一艦遂艦數隻發見 我照射砲擊

及照射砲擊手之敵反航煙幕張次同航上之如シ

敵八發砲也

三二

敵魚雷艇二命中山岳砲連沈滿潮朝西へ前部命中

行不能口頃敵砲擊漸次猛烈ト告頃城ヲ左斜

後方ニテ萬戰中敵艦停止敵艦中砲火ヲ受テソレヲ認メテ

三三三

雷跡三本艦底通過

三四二

最上敵直艇手彈ヲ受テ速力低下後落火火ニ包マレ認ム

三五〇

扶桑猛烈ナル敵戰艦巡洋艦集申砲火ヲ受テ火火ニ

五五航行不能トナリタルヲ認ム

8

十月二十五日

(0358)

敵艦機群、大規模に襲来し、我艦隊は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

(0410)

敵機群、我艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

(0435)

時雨、敵艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

(0459)

敵機、我艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

(0648)

敵機、我艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

(0942)

敵機、我艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

十月二十六日

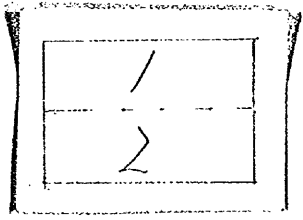
(0700)

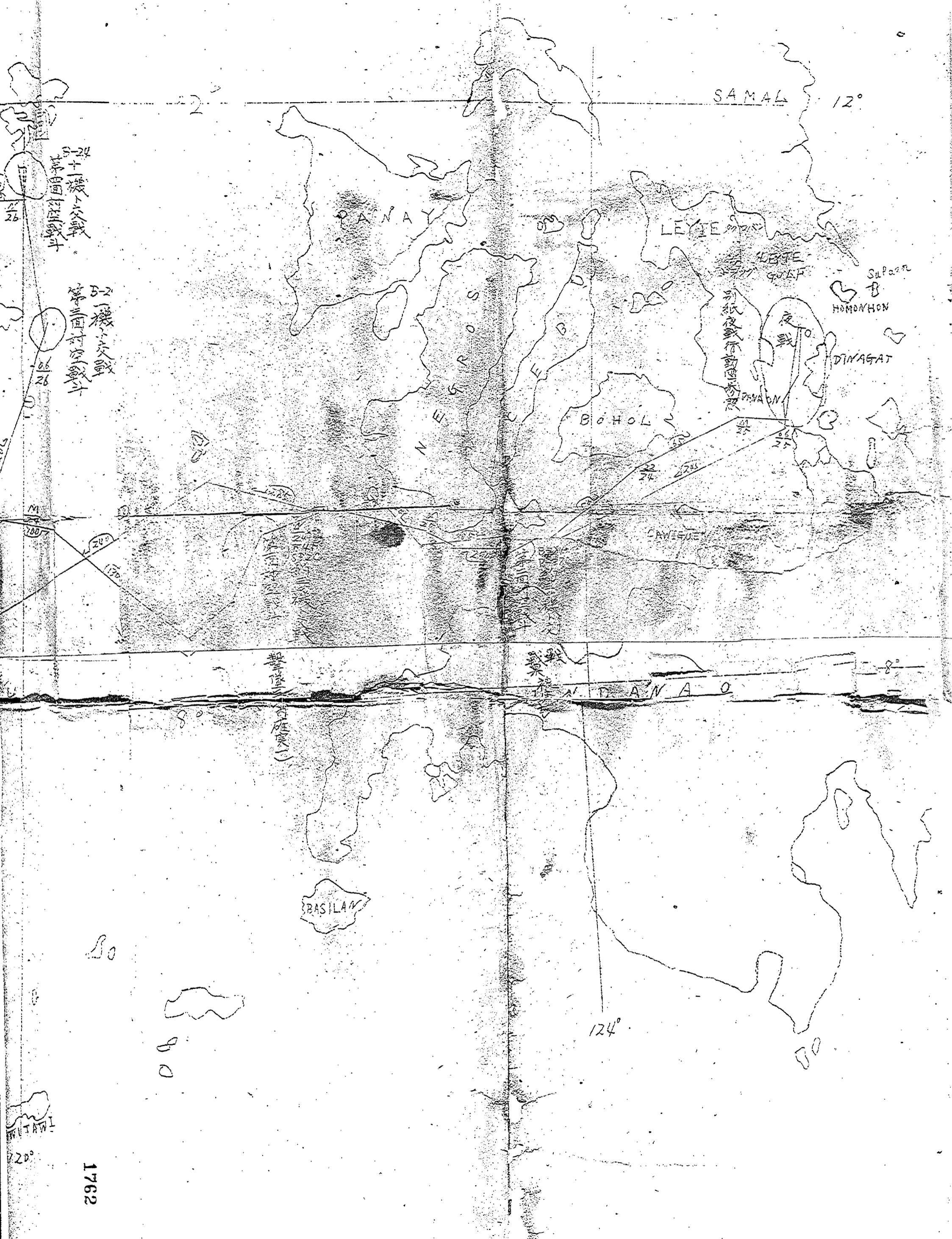
時雨、我艦隊を襲撃し、我艦は奮勇に迎撃した。敵機は多数を撃墜したが、我艦も被害を受けた。戦況は激しく、我艦隊は奮勇に迎撃した。

1761

の行動圖  
別紙第一第八通

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判 以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 11 月 7 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 尾形 文夫 (印)</p>	



SAMAL 12°

DANAY

LEYTE

NEGROS

BIHOL

HOMOHON

DINAGAT

MINDANAO

BRASILAN

第三回南洋探検  
 第一回南洋探検  
 第二回南洋探検

第三回南洋探検  
 第一回南洋探検  
 第二回南洋探検

LEYTE GULF

夜戦

20°

8°

124°

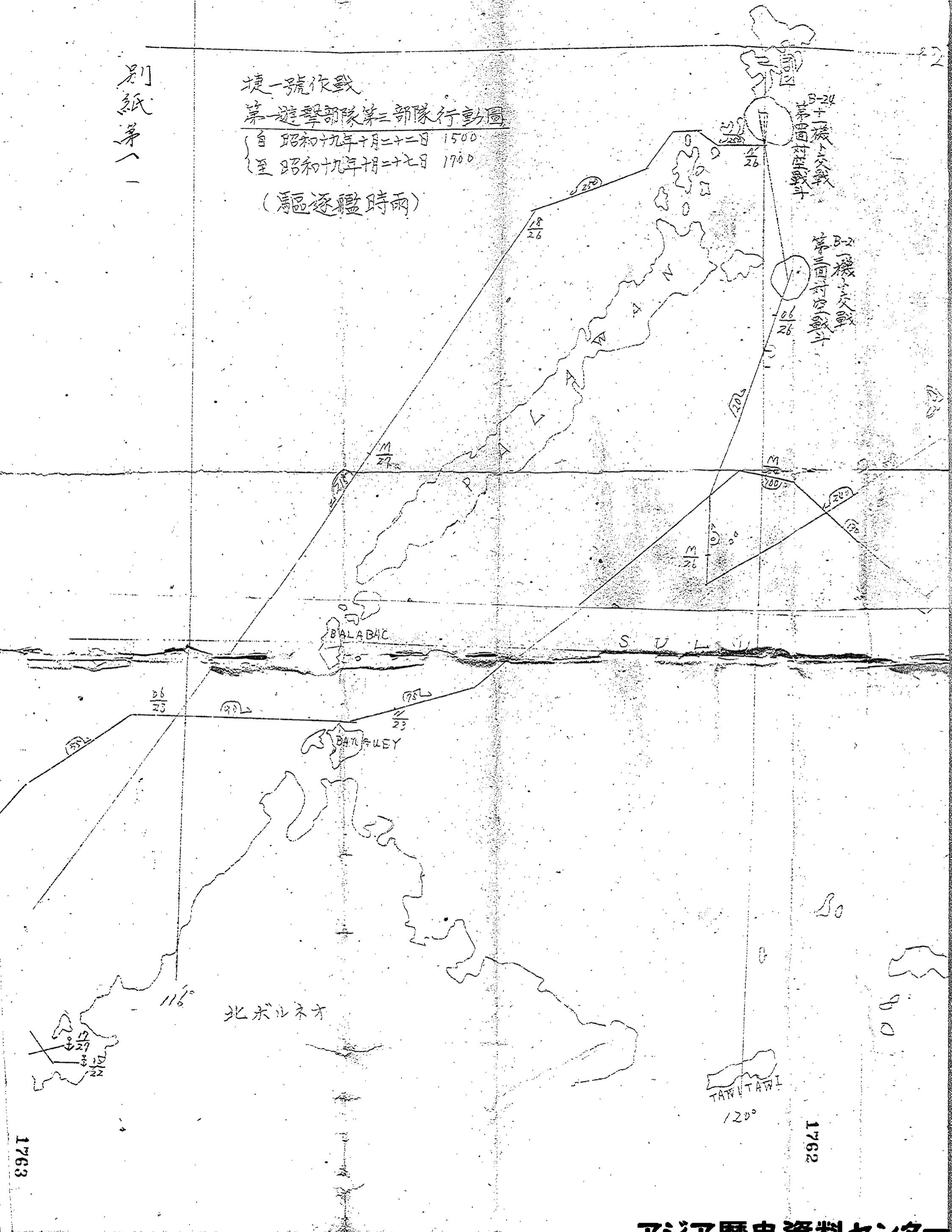
1762

別紙第八

捷一號作戰  
第一遊撃部隊第三部隊行動圖

{自 昭和十九年十月二十二日 1500  
至 昭和十九年十月二十七日 1700

(驅逐艦時雨)



1763

1762

別紙第二

(自10月25日0030  
至10月25日0530)

第一遊撃部隊第三部隊夜戦行動圖

透圖1:141同尺度

----- 伏撃  
----- 最上  
----- 時雨

LEYTE

少砲台  
司令  
二層

57

CX1  
dx2

状況  
受火  
炎

最上  
受火  
炎

航  
操  
舵

航  
操  
舵

0500  
0507  
0510  
0515  
0520  
0525  
0530  
直接  
操  
舵

0530  
直接  
操  
舵

Bx4  
Hibuson I

0400

dx3

母  
被  
雷  
0320

母  
被  
雷  
0300

DINAGAT

DARWIN I

10°0'N

0210

0200

L. MASAJOT

DARWIN I

0024 0100

0125

海軍機

司令達報告及通報

1265

發元	宛先	内容	種別
<p>十五日六〇〇 第一遊撃隊 部隊指揮官</p>	<p>十五日六〇〇 第一遊撃隊</p>	<p>第一遊撃隊部隊指令第五〇號 第一隊備機因待機命令 魚雷六時間待機</p>	<p>信號</p>
<p>十五日六三五 聯合艦隊 司令長官</p>	<p>十五日六三五 第一遊撃隊</p>	<p>聯合艦隊電令第五〇號 第一遊撃隊部隊 八至五山出撃準備ヲ下セ</p>	<p>〃</p>
<p>十五日六二五 第一遊撃隊 部隊指揮官</p>	<p>十五日六二五 第一遊撃隊</p>	<p>第一遊撃隊部隊指令第五〇號 IS 飛機飛行機隊ヲ除キ 本日中ニ出撃準備ヲ 完成スベシ</p>	<p>〃</p>
<p>十五日八三五 聯合艦隊 司令長官</p>	<p>十五日八〇八〇 司令長官</p>	<p>聯合艦隊電令第五〇號 捷一號作戰嚴警戒</p>	<p>無線</p>



<p>第七日 五〇〇 十七日 一四〇〇</p>	<p>第七日 五〇〇 十七日 一四〇〇</p>	<p>十七日 五〇〇 能合隊 自合隊</p>	<p>十七日 五〇〇 能合隊 自合隊</p>
<p>第七日 五〇〇 十七日 一四〇〇</p>	<p>第七日 五〇〇 十七日 一四〇〇</p>	<p>十七日 八〇〇 第一遊撃隊 第二遊撃隊 第三遊撃隊</p>	<p>十七日 八〇〇 第一遊撃隊 第二遊撃隊 第三遊撃隊</p>
<p>第一遊撃隊 信令作 第三隊 第二遊撃隊 信令作 第三隊 第三遊撃隊 信令作 第三隊</p> <p>能合隊 連合作 第三隊 第一遊撃隊 連合作 第三隊 第二遊撃隊 連合作 第三隊</p> <p>出撃身要領 第一隊 部隊先頭隊 出港時刻 八日 〇〇 第二隊 部隊 序 第三隊 (指揮官所定) 25日 16日</p> <p>421 順 16日 順</p> <p>6日 出港 地 第一隊 出港 地 第二隊</p>	<p>第一遊撃隊 信令作 第三隊 第二遊撃隊 信令作 第三隊 第三遊撃隊 信令作 第三隊</p> <p>能合隊 連合作 第三隊 第一遊撃隊 連合作 第三隊 第二遊撃隊 連合作 第三隊</p> <p>出撃身要領 第一隊 部隊先頭隊 出港時刻 八日 〇〇 第二隊 部隊 序 第三隊 (指揮官所定) 25日 16日</p> <p>421 順 16日 順</p> <p>6日 出港 地 第一隊 出港 地 第二隊</p>	<p>第一遊撃隊 信令作 第三隊 第二遊撃隊 信令作 第三隊 第三遊撃隊 信令作 第三隊</p> <p>能合隊 連合作 第三隊 第一遊撃隊 連合作 第三隊 第二遊撃隊 連合作 第三隊</p> <p>出撃身要領 第一隊 部隊先頭隊 出港時刻 八日 〇〇 第二隊 部隊 序 第三隊 (指揮官所定) 25日 16日</p> <p>421 順 16日 順</p> <p>6日 出港 地 第一隊 出港 地 第二隊</p>	<p>第一遊撃隊 信令作 第三隊 第二遊撃隊 信令作 第三隊 第三遊撃隊 信令作 第三隊</p> <p>能合隊 連合作 第三隊 第一遊撃隊 連合作 第三隊 第二遊撃隊 連合作 第三隊</p> <p>出撃身要領 第一隊 部隊先頭隊 出港時刻 八日 〇〇 第二隊 部隊 序 第三隊 (指揮官所定) 25日 16日</p> <p>421 順 16日 順</p> <p>6日 出港 地 第一隊 出港 地 第二隊</p>
<p>信 號</p>	<p>信 號</p>	<p>無 號</p>	<p>信 號</p>



1768

二十一日

二十二日

第一遊撃隊  
第二遊撃隊  
第三遊撃隊

是地駐留隊機動部隊本隊ト協同シ又日自香  
明時多バシテ頭受入先所在海島内撃滅  
之敵故略部隊ヲ殲滅セト又之ヲ為執心作  
戰在外第一遊撃隊部隊徒號作戰要領候ル  
ハ軍隊已介在通り改ム

(以下省略)	第三部隊(遊撃)	第二部隊(遊撃)	第一部隊(遊撃)	已介兵	力去要任務
	2小上雨 4dg(7輪)	3小上雨 6dg(7輪) 4dg(7輪) 清霜	4小上雨 5S(砲) 2dg(三輪)		
	敵水部隊守制 敵船同及上陸軍	敵船同及上陸軍 敵軍滅	敵水上部隊撃滅		

文書

二十一日

第一遊撃隊

第三部隊  
指揮官

二十二日

第三部隊

機密第一遊撃隊部隊第三部隊命令第一號

第三部隊命令

第三部隊機密第一遊撃隊部隊命令第五號

機密第一遊撃隊部隊命令第五號

(十月二十五日)初夜明(カクハ)の浦地(カクハ)突入殺到(カクハ)文書

敵部隊ヲ覆滅セトス

作戦要領

第三部隊ハ三日五時出撃ヲ對シ敵軍ヲ

敵艦ヲ引回航路ヲ終テ概テ日出前ニ時間

前未カニ策進セシカオ海峡ヲリカクハ(カクハ)地ヲ突入

シヨ出前後ニ直リ敵船團及陸軍ヲ攻撃シ

滅ス

(以下省略)

0445

<p>二十三日 第三部隊 指揮官</p>	<p>二十三日 第三部隊 指揮官</p>
<p>二十三日 第三部隊</p>	<p>二十三日 第三部隊</p>
<p>第三部隊信令第五號 二十三日六〇〇〇(ア)度五分 二十三日六〇〇〇(B)度五分 二十三日六〇〇〇(C)度五分 二十三日六〇〇〇(海峽入口)</p> <p>二十三日 第三部隊信令第五號 二十三日六〇〇〇(ア)度五分 二十三日六〇〇〇(B)度五分 二十三日六〇〇〇(C)度五分 二十三日六〇〇〇(海峽入口)</p> <p>二十三日 第三部隊信令第五號 二十三日六〇〇〇(ア)度五分 二十三日六〇〇〇(B)度五分 二十三日六〇〇〇(C)度五分 二十三日六〇〇〇(海峽入口)</p> <p>二十三日 第三部隊信令第五號 二十三日六〇〇〇(ア)度五分 二十三日六〇〇〇(B)度五分 二十三日六〇〇〇(C)度五分 二十三日六〇〇〇(海峽入口)</p>	<p>第三部隊信令第五號 ZB 左より南部隊へ引続て、ヨリが海峽入り、 予定方位方識別及今後方針関特留意 信 號</p>
<p>信 號</p>	<p>信 號</p>

<p>二十三日 二二二</p> <p>第三部隊</p>	<p>二十三日 二二二</p> <p>第三部隊</p>	<p>第三部隊指令第七號</p> <p>目的地之海軍封輸送艦砲撃ハ在外艦長 司令所是トス</p> <p>目標配分ハ目的地南ヨリ驅逐隊北ヨリ最上 兩者中間</p> <p>目標船順序揚格未了船大船主船風下トモノ 從深ニ碇泊形ハ右内側トモノ</p> <p>射程距離標準2500ヤード最上ハ500ヤード 驅逐艦ハ500ヤード各隊(艦)射線ハ重複</p>	<p>四浦地突入前敵水上艦(特ニ戰艦)遭遇シ徹軍彈 入着時間ヲ要スル時ハ便令ヲ彈ヲ砲撃ヲ開始 シテ後徹軍彈ヲ移ルモトス船団攻撃中敵水 上艦出現セバ場合右ニ准トス</p>
---------------------------------	---------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

一、距離三十五軒以上を係り  
 二、砲戦要領  
 三、特令を以て艦身撃撃（至砲台交互行方）  
 状況に依り指合行方  
 四、至砲台或通常運用状況に依り照明  
 彈使用の令  
 五、是處中より心へ之を去る  
 目標を去る  
 六、照準具の船橋水準線及是より  
 七、目標を換機  
 八、火災若心起る  
 九、敵舟時有利彈を確証し後艦見込  
 十、右外へ敵砲戦を係り

185

1723

<p>八月三日 一九〇三 第三部隊 指揮官</p>	<p>八月三日 一九〇三 第三部隊 指揮官</p>
<p>八月三日 一九〇三 第三部隊</p>	<p>八月三日 一九〇三 第三部隊</p>
<p>第三部隊信令第九號 令度九依り特ニ對テ其ニ嚴重ニ戒メテ示スベシ （重波消滅第三隊警戒配備） 内探知各艦隊時配員嚴重ニ探知ヲスル 標信各艦へハ號（即チ探知信開始） ニ應ジ得ル如ク探信戰斗管制但シ敵機ハ發見</p>	<p>第三部隊信令第八號 基是ルルカニ何度何理又ハ在リシ何度何理ニテ 表示シタルカニ及莫トモ有利ナ場合（破損或運 船位直方向等）何度何理ニテ表示ス 附令第四地是表示法ニ在リテ島ヲ是莫トシ 疎ル毎四ニ記入シ置クヲ要ス</p>
<p>信 號</p>	<p></p>



等緊急之際艦長所定之依據信ヲ開始スルヲ待

敵信傍受

敵艦隊電波軍艦各艦驅逐艦ハ餘格ノ場合配員

敵哨戒機電波山城

その他

對潛艇空見張水中聽音ヲ敵ニス

此ノ得ルニ外ハ後者居處ヲ侵襲セズ

部隊内之電話待受ヲ敵ニシテ其緊急心場

合外ハ切電波ノ輻射ヲ示ス

第三部隊信令第一號

後密航第三部隊命令作第一號別紙航空戰要

領中任務行動表連リ改ム  
本等偵察機ハ前日以前艦長所定ニ依リ

八月三日  
八月五日

第三部隊  
指揮官

八月三日  
八月五日

第三部隊

發艦レイ予灣特ニ「タカバネ」トラガ附近ヲ精密ニ

(黎明偵察後帰途「ミタカ」ヲ海偵察)

八月五日偵察機ハ同日ハ六。發艦「ミタカ」ヲ海偵察

後レイ予灣海偵察

八月五日偵察機ハ同日ハ六。發艦レイ予灣内

偵察機ハ「ミタカ」及「新道」

西攻撃隊ハ同日ハ六。發艦セガ「回航」五物

明時當隊攻撃ヲ「兼」進攻隊

五右各隊(機)ハ任務終了後レイ予也(セガ「ミ」補給)

八月五日待機

八月五日諸機飛行機發艦以前ニ敵艦艦影アリ

此際ハ各機ヲ爲シ得ル限リ全機發艦セガ「ミ」

此ニ避退爾後各任務ハ進ルル如ク行新スベシ

1776

<p>最上 二十四日 八二二五</p>	<p>第三部隊 指揮官 二十四日 八二二五</p>	<p>二十四日 八二二〇</p>
<p>第三部隊 二十四日 八二二五</p>	<p>第三部隊 二十四日 八二二五</p>	<p>二十四日 八二二〇</p>
<p>傳形教列艇形 短</p> <p>第六偵察機報告(六〇五) 「ボラグ」の度七運附近輸送船約十隻降次</p>	<p>機上各第三部隊訓練等へ號 白雲國の興と發本決戦の任り又各島へ降日 奮勵自國思ふ魚空射の報と奉らる下 ヲ期也</p>	<p>第三部隊信令第一へ號 戦を終了後集令及及燃料補給の國シテ 通り定ム 集令及がミギノ島(ミシヤノ海) 灯台のミ。度三五理 燃料補給の差當り「ボラグ」セロトス</p>
<p>信 號</p>	<p>信 號</p>	<p>信 號</p>

以序

山山山

<p>二十五日 一四一〇 第三部隊 指揮官</p>	<p>二十五日 一五三五 第三部隊 指揮官</p>	
<p>二十五日 一四一〇 第三部隊</p>	<p>二十五日 一五三五 第三部隊</p>	
<p>第三部隊指令第一三號 第三部隊ハ日没頃合ニ依リ解列先航 第三部隊前方概木ニ軒ヲ掃航シシバオシ島 西側附近ノ敵再艇群ヲ掃蕩シテ下ヲ掃 ク突入共ニ。。。。</p>	<p>ハニニ。。逆第一警戒成此備 ハニニ。。逆第一警戒成此備 ハニニ。。逆第一警戒成此備</p>	<p>ハニニ。。逆第一警戒成此備 ハニニ。。逆第一警戒成此備 ハニニ。。逆第一警戒成此備</p>
<p>信 號</p>	<p>信 號</p>	

8221

<p>二十四日 八六三五 司 右</p>	<p>二十五日 八八三三 聯合艦隊 司令長官</p>
<p>二十四日 八六三五 司 右</p>	<p>二十五日 八九〇〇 聯合艦隊</p>
<p>於復掃 第一索敵艦隊の位置を以て 第二索敵艦隊の位置を以て 今夜状況の変化を以て 第一索敵艦隊の位置を以て 射撃準備を以て</p>	<p>聯合艦隊電令第三七二號 天佑の確信を以て 第一索敵艦隊の位置を以て</p>
<p>信 疏</p>	<p>無電</p>

24

644T

日	時	發	光	令	種類
〇三〇	〇三五	時雨	〇三五	敵魚雷艇一隻見之我ヨリ方位三〇度	電
〇三五	〇四〇	時雨	〇三五	本艦首二魚雷艇一隻見之	
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	魚雷艇ヲ照射セヨ	電
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	照射始メ	
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	魚雷艇一隻命中	電
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	距離遠照射セ我砲撃出来止メ	
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	団六五 發動	電
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	敵情知ラセ	
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	我敵ヲ見ス	電
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	砲撃ヲ見ス	
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	砲撃使用不能ノ刻ニ應ニ修理中ノ念ノ爲	電
〇四〇	〇四〇	時雨	〇四〇	砲撃使用不能ノ刻ニ應ニ修理中ノ念ノ爲	

1780

25  
77

0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

未だ敵見不  
我因天五  
我〇八五合同予定  
針路知ラ也  
我針路〇度令リ突入ス  
我〇三五合同英通過〇五三團九〇團八K  
敵魚雷艇見五我リ方位〇〇度  
我後動  
敵〇三〇艦影見五  
赤々計教八  
敵〇三〇艦影見五我リ方位〇〇度  
敵九見五我リ方位〇〇度  
連カ知ラ也  
八發動  
八發動

話

電

26  
25

1781

1880

〇〇五七	〇〇四九	〇〇四八	〇〇四五	〇〇三九	〇〇三七	〇〇三三	〇〇三〇	〇〇二八
+	A-25	最上	最上	A-25	最上	A-25	時雨	A-25
三部隊	最上	A-25	最上	三部隊	A-25	時雨	A-25	A-25
〇〇二九團 〇〇四〇 〇〇五〇團 〇〇	我団九〇	後尾 續行ス	針路知ラセ	第一索敵既備 Aヲ二軒改ム	4dg 發動	三隊之前方ニ敵魚雷艇ニ見アリ	先此ハ味方ノ誤	突入ヲ取ル本隊ニ合同ス
								電



0057	〇八〇〇	〇一〇〇〇	〇八八〇	〇八八四	〇八五五	〇八八八	〇八八〇	〇八五五	〇八五六	〇八三〇	〇八三〇
滿潮	△25	滿潮	△25	滿潮	△25	滿潮	△25	滿潮	△25	山雲	滿潮
4kg	△25	△25	△25	△25	△25	△25	△25	△25	△25	△25	△25
圍圍計△0.6	〇八九位置	當隊25斜後	扶桑後尾	突嗟魚雷	其艦位置	當隊山城	發動	圍圍計△0.6	圍圍計△0.6	圍圍計△0.6	圍圍計△0.6
電	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6	△0.6

28  
24

1783

1885

0.10.8	0.10.7	0.10.5	0.10.0	0.10.0	0.10.0	0.10.8	0.10.5	0.10.3	0.10.0	0.10.0	0.10.5
△ <sub>28</sub>	朝雲	満潮	△ <sub>28</sub>	最上	△ <sub>28</sub>	△ <sub>28</sub>	編潮	△ <sub>28</sub>	△ <sub>28</sub>	満潮	△ <sub>28</sub>
			△部隊	扶桑	△部隊	編潮	△部隊				4dg

討九

七月

敵の雷艇見たり方位は〇〇度  
敵の艦影見たり方位は〇〇度  
敵の艦影見たり方位は〇〇度

其艦後部ニ灯光見たり〇〇度

發動

討九

先、戦才に於て雷艇一隻撃つ  
本艇主隊直前ニ入り貴隊進出後定て  
二龍ク

五レツケ

第一、戦速發動

第二、素敵配備ニ就ク

〇八	〇三〇	〇二五	〇二五	〇二八	〇二七	〇二六	〇二五	〇二四	〇二三	〇二二	〇二一
山雲	山雲	時雨	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲
三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊	三部隊
度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上	度方南ニ雷跡見上

状況知ラ也

度方南ニ雷跡見上

敵ニ見懸新ニ見ニ成リ方位ニ度方南

水道通過魚雷艇ノ噴撃ヲ度方南ニ

其ノ儘

合同スベキニ第二索敵艦配備アリ

殺動

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

〇〇

0310	0315	0320	0325	0330	0335	0340	0345	0350	0355	0400
満	朝雲	朝雲	満	朝雲	朝雲	満	朝雲	満	朝雲	朝雲
山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲
山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲	山雲
列入ル	前部ニ魚雷命中	前部ニ魚雷命中	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ	速力知ラセ
魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)	魚雷既観測(誤)
三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ	三五度方向雷跡見エ
三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度	三五七〇見ニ我軍より約三〇〇度
赤々	青々	赤々	赤々	赤々	赤々	赤々	赤々	赤々	赤々	赤々

話

電

984T

(0)

2271

0 四 四 五	0 四 一	0 四 0 0	0 三 五 六	0 三 四 八	0 三 四 四	0 三 三 八
時 那 智	時 那 智	時 那 智	時 那 智	時 那 智	時 那 智	時 那 智
那 智	那 智	那 智	那 智	那 智	那 智	那 智
那 智	那 智	那 智	那 智	那 智	那 智	那 智
我 能 取 被 故 障	那 智 後 二 能 レ	至 近 彈 為 電 話 機 全 部 使 用 不 能 レ ル 二 號 電 話 三 故 障 後 日 使 用 可 能 レ ル	狀 況 知 ラ レ 度 レ 了 解 セ ズ	出 レ 得 ル 最 大 速 力 知 ラ セ	我 責 隊 三 統 行 ス レ テ 二 了 解 セ ズ	我 水 道 ヲ 突 破
話						電

22

482T



時雨 艦長

第三艦隊司令官  
高橋 貞吉  
副司令官  
高橋 貞吉

時雨機密第二五〇八番電

第三艦隊司令官より南口通過の五五  
以下推定して最後迄各艦奮戦せし他艦  
密輸受けて沈没の艦不確実なり本艦  
最後迄戦場在りし艦トナリ  
且敵の巧み角影ヲ利用分散配備ヲ取り電測ヲ  
極度利用ナル為敵情ヲ明ニ得ズ一應戦  
場は避退後圖ヲ討ルベク爾下中航取機械故障無電  
障時人力操舵ヲ以テ航行セリ應急處  
置ニ依リ補助舵取機械ヲ使用可能トナリ  
ソルモ尚操舵不如意ナリ且灣ニ向航船  
体被害ト共ニ應急修理ヲ妙高ニ依頼ス

時雨  
驅逐艦長

三月二二日

三月二二日

第遊雲部隊

指揮官

第空雷戰隊司令官

南西方面艦隊長官

妙高 高雄

遠道發射命中彈敵艦主砲、至近彈二  
發、船重油タンク五(容重九噸)艦底外板  
及機室空船水線下二波口裏列衣船軸室艦  
底二十米ノ處裂傷輪羅針儀破損セシ  
他人員船体兵器被害アルモ戰鬥航海ニ差  
支ナシ

爾後、行動ニ関シ指令ヲ

時雨機密第二六一二二番電

我ヨリ西口南口運口以南口附近ニテ

218敵大型機ノ來龍ヲ受ケツアリ

貴機機密第二六一五番電閣下ハラフ以西

経テ218向フ燃料現有八噸

無電

74

684T

28

五、戰果及被害消耗兵器等

(一) 戰果

飛行機(艦爆)撃墜一機(可不確實一機)

魚雷艇一隻撃沈

第三部隊トシテ他艦戰果ハ不詳ナリ

(二) 被害



船体

11 第五兵員室右舷上甲板→四區(右舷)隔壁→四區甲板→貫通セシル彈丸  
破孔(直徑約四十糎)

12 四區右舷甲板約四米平方上方ニ膨レ上ル

13 二十一 二十二 二十四 二十五 二十七 二十八 二十九番重油タンク何レモ破孔多数列取

外板艦底ヨリ浸水

14 第三九番重油タンク右舷空所浸水

15 船軸室及第二機関科倉庫艦底全長ニ亘リ多数列取浸水

16 船外板機銃彈ニ依リ破孔

冷却室(水線上一機械室(水線下)

17 小銃彈庫 浸水 少量宛

18 二番主砲彈庫船隔壁内方(膨脹鉤弛)ニ少量宛浸水

(35cm X 10) (30cm X 1)

艦底運送

兵器

小砲術科

小一番砲天蓋

被彈破孔

四探照燈管制器 電路不良 使用不能

小一砲右砲推進發條 切損

水雷科

小船指揮盤十二種 眼鏡破壞 使用不能

小舷外電路破損

航海科

小轉輪羅針儀破壞 使用不能

小主舵取機電磁弁作動不良

小補助舵取機漏油多

小主副併用 使用不能

音響測深儀 航跡自画器 使用不能

二 左舷灯破壊

通信科

二二二號電波探信儀故障

電探電波用電動交流發電機不良

八九式特受信機改三二基 不良

三一式空三号隊内無線電話機

九一式特四号送信機 改一

九三式超短波無線電話機

九〇式無線電話機

三機関

三 三空補助蒸氣管及排氣管破孔

四 使用不能重油多ク量 約八噸

何と使用不能

消耗彈藥

主砲

通常彈

八八

三式彈

三六

時限彈

一七

計二四一

機銃 七九三

人員消耗

戰死

重傷 六 (戰鬥之差支ハル者)

40

戰訓所見

一 殺戰訓

我ト同勢力以上敵泊地ニ夜間突入スル勝算ナシ

戰鬥經過ヨリ顧ミルニ敵公巧ニ島影ヲ利用分散包圍態勢ヲ形成シ

極度ニ電探ヲ利用シ且煙幕ヲ無制限ニ使用スルヲ以テ我ハ殆ト敵ノ

情況ヲ判別シ得ズ只敵ハ多數ノ魚雷艇ヲ泊地前方ニ運送進出セシメ

終始觸接襲殺手ノ好機ヲ狙ヒソアリテ之ニ夜間突入スル絶對ニ難

算ナシ

四夜間敵泊地ニ突入スル場合ハ必ズ電探回避運動ヲ行フヨシ又

二十五日三三ノ敵ノ三艦及山城砲台ト同時ニ敵魚雷命中ニ特ニ公巧

ノ如キニハ少ク三本命中ノ機ニ轉シ非タルガ敵ハ電探ヲ利用スル精

巧ナル射撃手段ノ如キヲ裝備シ我針路速カヲ精確ニ測定シ射角

及照準線ヲ決是發射スルモノト認ムラレリヲ以テ我ハ此場合梯陣

如

如ク不規ノ隊形ヲ取ル共ニ之ヲ運動スルハ航行運動ヲ以テ敵ノ  
 電探ヲ攪乱スルヲ要ス第三部隊ハ敵ヲ殺シ以テ概テ縱陣列ニ即  
 直進ヲ以テ突入シタルガ如ク時雨山域ニ縱陣列ニ於テ時雨ニ敵魚雷命  
 中セザリシハ山城左斜前一五軒ヨリ後尾ニ就ク爲テ不規則ナル変針數  
 速ヲ行ヒ居リタルト思ハル敵ハ射撃ニ照射及至照明彈ヲ使用  
 セサルヲ以テ專ラ電探利用射撃ト由ル雨ニ至テ二十五日三四五頃ヨリ  
 三四頃迄時雨が敵ヨリ猛烈ナル集中射撃ヲ受テ全周彈着ノ  
 水柱ニ蔽ハ船体破壊スル程激動ヲ爲シテ僅カニ20程砲彈一發  
 ノ命中彈ナリシハ先ニ四ノ輸送依載ノ際ニ體驗ニ基ケル小龍角ニ依リ  
 変針ノ蛇行運動ヲ以テ電探射撃ヲ回避運動ヲ行ヒタルニ依ルモト思ハ  
 ル速ニ煙幕中ノ目標ニ對スル射撃手ノ研究並ニ閉係兵器工夫ヲ要ス  
 敵ハ艦種ヲ問ハズ昼夜ヲ問ハズ我ハ射撃手ヲ思ヒ無制限ニ煙幕中ニ使  
 用ス煙幕中ニ於テモ有効ナル射撃手可能トナラザレバ戰果ヲ全ク得サル也

#42  
38

多カビシ

ハ好ノ突入隊形ハ並縦陣ヲ守ル可トス

運動ノ容易ト曰武觀令ハ捉ハレ軍縦陣ヲ以テ突入セル傾向ナシカレ

449ハ開距離約100米ナリシヲ拘テ同時ニ三隻被雷戦斗カレ共ハ日本隊ハ

二三ノ戦例ニアリ突入時ハソツク開距離約一軒ト陣形ハ陣次陣ハカクナリ

ヅク錯雜セルヲ有知トシ雷撃突入直前迄電探回避運動ヲ行フ可トス

敵電探ヲ封止ル手段ヲ研究考案スルヲ要ス

今次戦斗ハ敵電探ニシテヤラント言フモ過言ニ非ラス故ニ敵ニ電測ヲ封止ス

又ハ困難ナラシムル如ク或ハ敵電探電波ト類似電波ヲ全周ニ輻射スル等

手段ヲ研究考案スルヲ要ス

艦艇ノ對空戦斗ハ被雷撃ナク勿論爆撃機銃掃射ニ對シテモ積極的

回避ヲ行フヲ要ス第三部隊ニ四日對空戦斗ニ於テB2Cノ所屬三機

443  
79

扶桑ニ急降下爆撃ヲ行ヒテ實際回避ヲ行ハシ後中相當ノ  
 害アリシニ拘ラズ爆撃隊モ機ナシ又時向ハ機銃掃射ヲ受テ相當ノ被害  
 アリテ積極的ニ回避セハシテ被害ヲ免レタルモト田心ハル  
 而モ射撃手効果(時利)爆撃隊ニ火ヲ吐カシタルモノニテ前例ニ比シテ戦果  
 シシニハ大ナル差異ナシ  
 此來ル限リ連射部隊ニ使用シテ時向北後戦ノ如ク戦隊ニ隔リ算  
 大ナル場合ニ於テ然リ連射部隊ハ其ノ戦術通信連絡等其ノ用ヲ消シカス  
 且夜戦ノ特徴タル以心博心ノ戦斗指揮不如意ニシテ從ツテ思フ通り  
 戦斗ニ容來ズシテ敵ニ乘ゼラル虚隙ヲ生ズ



砲術戰訓

對空戰鬥

敵飛行機 識別法 徹底ヲ計ルヲ要ス且敵兵裝其他ヲ熟知シ

置クトキハ射撃ニ著キ餘裕ヲ生シ精神的ニ有利ナリ

射撃開始時機ヲ失ハサルヲ要ス時ニ我ニ急襲スル急降下爆撃手等

於テハ鬼角射撃ヲ指自選ト勝トナル

高角ノ變化ノ早イ他艦ノ急降下爆撃手等機銃順撃ニ彈莫射撃

(照準固定)スルヲ要ス照準ニ捉ハルル時ハ所謂虫蜂取ラズノ形式ニナリ

却ツテ敵ニ乘ゼラル

機銃彈ノ破孔ハ案外大ナルモノナリ敵機ハ子機銃ヲ

裝備シ居リ其ノ彈徑ニ十耗彈長ハ二耗彈量一セ凡ハ内腔徑九耗ニテ炸

藥ヲ填充シヤリヨ計測セリ徹甲彈及瞬發式彈丸ノ前者ハ外銀(後裝)

44  
優ニ貫通シ水線下ニ破孔ヲ生ゼシメ甚ク油断ナラズ代物ニシテ右者ハ彈片

極メテ小片ニ散シ人負ヲ多敷殺傷ス一發ノ彈丸能ク塔天等無命ニ炸裂セ  
九名ノ死傷者何モ即時戦斗不能トナレラセリ

而今回ノ戦斗ニ於テ銃發射彈數平均ニ七。發リテモ打針先端ノ折損時

無ニシテ改造打針ニ換テ射部改造ハ極メテ有効ナルモト認ム

以特大型機高々度水平爆撃ヲ對スル射撃手ニ於テハ測距ヲ全幅活用シ

目測ニ併用之ガ正確ヲ期シ射撃手開始時機ヲ適切ナラシムルヲ要ス

高度測定セ即刻之ヲ機銃員ニ徹底セシム以テ目測ニ補助トナスモ

一法ナリト認ム

小主砲ノ射火型哨戒機射撃手ニ於テ初彈ノ時機ハ大ニ考慮ヲ要ス

之ガ適切ニ行フ時ハ必隊上ヲ至期ニ得ルモノニシテ敵ニ乗セラザルヲ要ス於テ

極力手許ニ引ツケ(大体一〇〇〇米ヲ適良トセ)一發射撃手降ヲ企圖スルヲ要ス

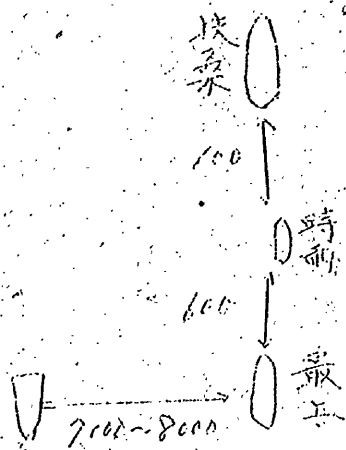
46

對水上艦艇

射撃ハ徹底的ナルヲ要ス一度敵ヲ見テ置キ宛テ敵方反撃ヲセサル  
 故ヲ以テ其儘生半可射撃ヲ控ル極メテ不可ナリ狀況ニ依リ異ル  
 モ今回夜戦如キ場合於テ先テ眼前敵艦隊ヲ撃滅スルハ敵艦  
 因撃滅ハ不可能ナルトシ強ク思ヒテ敵方攻撃ヲセサル故ヲ以テ之ヲ  
 糧過セントシ觀念ハ根本的ニ不可ナルト信ス

敵非常ナル煙幕ニ依ル船腹運動ニ依リ我々照明照射ヲ射テ下  
 行ツテ之ヲ對照スルニテハ遠シク艦探射撃ヲ發射シ術力兵士ヲ確立ス  
 此在リ現在水上射撃用トシテ使用サレツルニテハ遠シク艦探射撃ニ  
 好ナル時ハ照射射撃ヲ可能ナルニ部品故艦探射撃ニ且特種兵器未ダ  
 完備セズ遂ニ一方先聲ヲ期スルニ最大ノ急務トシテ信ス  
 敵ハ遠シク青色ノ火光彈ヲ使用スルニ依リ彈着觀測ノ企圖ヲ示ス

(對敵力)



避弾運動ハ敵曳光彈ニ依ル彈道ヲ觀測シテ行フトキハ輕ク有効ニ  
 實施ス得時三方數千米距離ヨリ東北彈丸ハ距離逐離ルカキ輕快艦艇  
 ハ運動適切ニ行ハズ自衛可能ナリ  
 敵曳光探射機ヲ精度ニ彈ヲ射テ良好ト認メルモ七八千米距離ヨリ敵  
 六枚(三對)ノ探射機數年ヲ待テ三ノ射ミニ命中彈ヲ得爾右直續  
 有効彈ヲ送リ交シテ則續艦ト對敵力ハ左加シヨク各艦分離能力有ス

48  
44

又敵Bハ一萬數千米ヨリ我B兵對シ中彈ヲ送リ我Bノ砲力發射前  
ニ之ヲ殺手沈沈没セシメタルヲ認ム

(前記)立トシテ電探ノバネイキヤツト地勢カ利ヨク見テ高地ニ夜間ノ

突入ハ極力之ヲ避テ黎明直前少クモ交戦中視明ルケルガ如キ  
時機ヲ選ボ可トス

山嶽殺手防止策敵ノ電探封止策先制被發見防ニ要ス見地ヨリ

高地夜間等ニ於テハ極力陸地ノ邊ニ退却撃テ敵ノ電探射撃

發射ヲ予期セラル時ハ必ズ避彈運動ノ如キ敵電測者止メテ取リ

進撃スルヲ要ス

敵情ノ大畧把握迄ハ極力照明明輝ヲ全中活用スルヲ要ス特ニ四圍ニ照

射ルコト肝要ニシテ一側ノ敵ニ捉ハレ乘セラルルコトヲ要ス照射ニテ

目標ニ捉ハレ支障無射ノ利ハ敵ニ與フルコト多シ

2

對魚雷艇戰斗

小魚雷艇射撃手ニ照明彈射撃手ガ發射力ヲ持テ他艦(四五米)離隔シ艦ノ照明射撃手が有利ナリ敵魚雷艇群ノ全艦ヲ偵知ス來敵ハ協同異方面同時發射手ヲ封シ得且又射撃手專其施シ七發角穿火ナル敵ニ對シ終始良好ナル照明狀況ニ維持スルヲ志看キ射撃指揮可能ナリ

心前部砲群ハ發砲ノ閃光ニヨリ艦橋ヲ眩惑シ戰術ヲ擇艦ノ判斷處置ヲ妨害スルコト大ナリ後部砲群ノ使用スルヲ可トスル場合多シ機銃射撃手距離大ナル時ハ三五米以テ精神的效果以外ニハ効果極ク少シ考慮ヨ要スベキモト認ム

射距離ナル故急齊射ニテモ齊射砲ノ觀測射撃手トナル事ヲ充分慮シ彈藥ノ消費ニモ留意シテ齊射砲必中ヲ期シテ射撃手スルヲ要スアマリニ射撃手速度ニ從ハルル時ハ存外命中彈ヲ得スニ從テ彈藥ニ

1804

180

消耗所謂劫將亂殺手之陷り易し  
 水敵ハ船中時ニ以テ煙幕ヲ展張スルヲ以テ先ツ展張艇ヲ殺滅ス  
 心構アルヲ要ス

## 水雷科戦訓

魚雷發射好機正子戰過  
 時好機ト認メテハ萬難ヲ  
 左方ニ發見セシ敵ハ二隻  
 前程敵ハ一砲在ビ爾後ハ大戦射ヲ為シ發射セシ  
 敵ハ電測發射ヲ行ヒ下ルルニ略奪實ニシテ電測ハ發射ヲ指揮兵器發射  
 入ル兵器既ニ完成セルモノ如ク四驅隊ノ三艦及ニ城分隊下同時ニ視認  
 狀況不良ナル敵ヨリ雷艇ヲ發射ルカ如キ大イニ成ルルニキリト認ム  
 ハ敵ハ飛行機潜水艦水上艦艇ニ連絡緊密ニシテアナトリ難キモノアリ  
 又菲島各水道要所ニ哨戒機ヲシテ以テ戰ハルモノ如シ



航海通信科戰訓

對空戰計於艦隊多數及場所狹小止行得サレモ

齊動回避ハ之ヲサケ單独回避ヲ行フ方カ敵機ハ火集回攻殺手

ヲ回避シ得

敵艦電探射撃下近接離隔時驅逐隊率縱陣ハ絶對不可尚

離隔時各艦各左右視帝五度位ハ角度避彈運動ヲ實施ス

此種ノテ有効本艦四ノ下以夜戰以來經驗ニ依

ル夜戰ニ於テ各驅逐艦距離ハ一杆ハ離スヲ要ス

通信連絡運動ハ戰術場面ニ於テ電話主用

被害局限タメナリ